

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

国登録有形文化財小林古径邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古径記念美術館増改築事業

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

上越市

### 3 地域再生計画の区域

上越市の全域

### 4 地域再生計画の目標

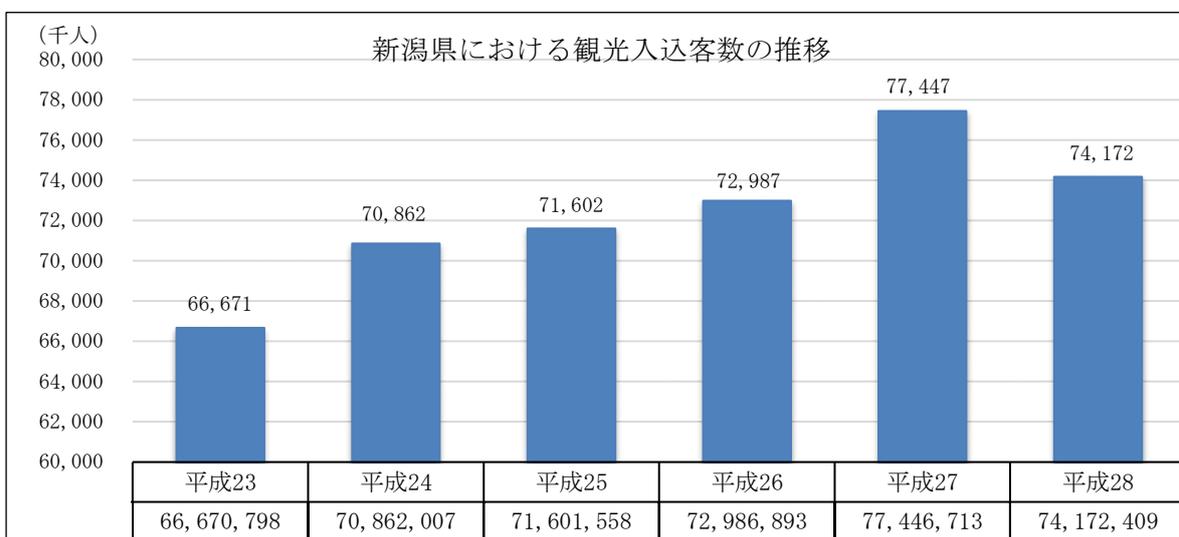
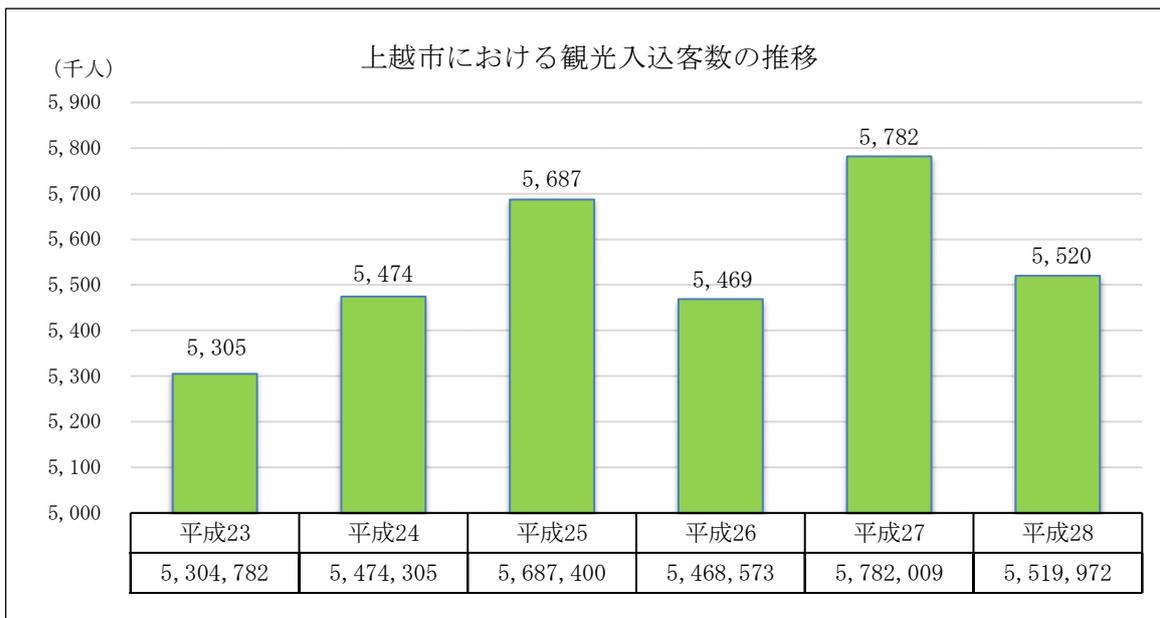
#### 4-1 地域の現状

上越市は、新潟県の南西部、北信越地域の中央に位置しており、市域の中央に流れる関川沿いに開けた平野部を山間部と海岸部が囲み、変化に富んだ地形と四季折々の美しい自然の中で、20万人の市民が日々の暮らしを営んでいる。

古くから交通の要衝として栄えてきた本市には、重要港湾の直江津港をはじめ、陸路として北陸自動車道、上信越自動車道が走り、平成27年3月には北陸新幹線が開業した。さらに、JR信越本線、ほくほく線、妙高はねうまライン、日本海ひすいラインの鉄道網も整備され、地域内の往来や近隣地域との交流を支えている。また、長い歴史と固有の気候風土の中で、人々が知恵を重ね合わせ、培ってきた個性的な文化が数多く残っている。

本市の人口は減少の一途をたどり、1986（昭和60）年に約21万6千人あった人口は、2025年には約18万2千人にまで減少すると推計されている。（出典：国立社会保障・人口問題研究所推計）また、本市では、人口減少を踏まえて地域経済の活性化を目的として観光事業に取り組んできた。

本市の観光を取り巻く環境として、「新潟県観光入込客統計」によれば、新潟県全体の観光入込客は微増ながら伸びている中、本市は平成27年の北陸新幹線の開業により、観光入込客数の増加が期待されていたが伸び悩んでいる状況である。



※新潟県観光入込客統計を基に作成

#### 4-2 地域の課題

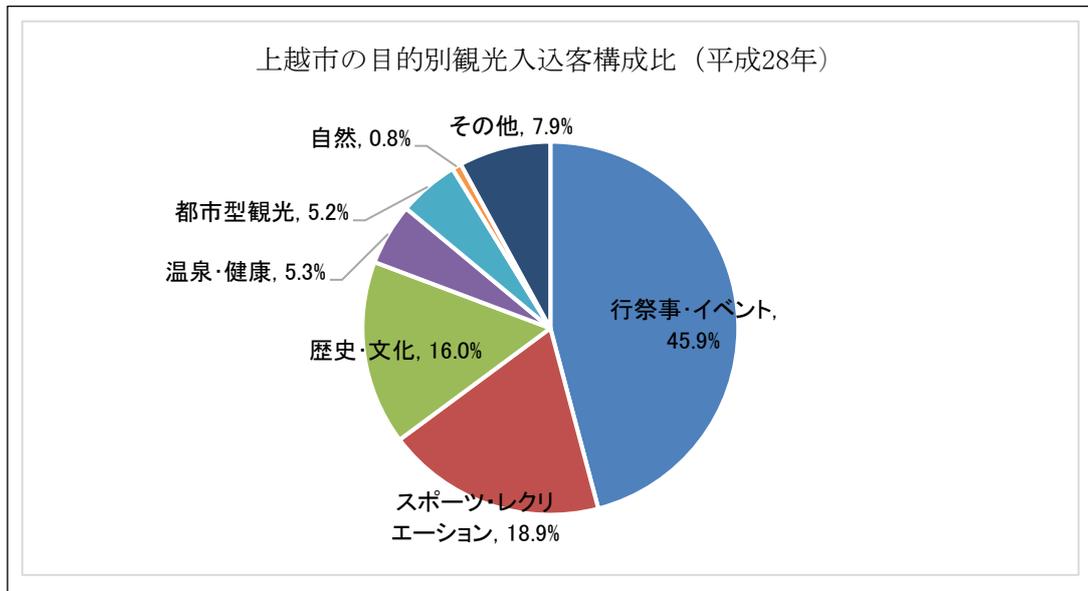
本市は、上杉謙信の居城跡である春日山や徳川家康の六男である松平忠輝を初代城主とする高田城などを有し、歴史・文化が息づくまちとして知られている。また、小林古径や富岡惣一郎などの新潟県を代表する芸術家も輩出しており、記念美術館等の歴史的、文化的観光資源を有している。

しかし、観光客の市への来訪目的を分析すると、平成28年の「上越市の目的別観光入込客構成比」では、高田城百万人観桜会（130万1千人）や謙信公祭（14万9千人）など、「行祭事・イベント」が45.9%と約半数を占め、「歴史・文化」を目的に本市を訪れる人は3番目の16%に留まっている。市の有する歴史的、文化的観光資源を活かしきれていない状況が見受けられ、観光入込客の増加が伸び悩んでいる一要因と考えられる。

また、イベントは多くの入込みがある一方で天候の影響が大きく、さら

には開催時期が限定される一過性のものにすぎない。そのため、イベント開催時以外の期間はまちの賑わいが少なく、事業者は安定した経営を行うことが困難な状況になってきている。

イベントに頼る従前の観光施策から脱却し、年間を通して交流人口を確保、拡大していくためには、季節や天候に左右されることのない、本市の長い歴史に育まれた文化を活かした取組を進める必要がある。



※新潟県観光入込客統計を基に作成

#### 4-3 目標

本市の観光における現状や課題を踏まえ、歴史・文化のなかでも全国的に注目度の高い小林古径記念美術館を整備することで、日常的な交流人口の増加を目指すものである。

本市は、近代日本画壇の代表格であり、新潟県人で初めてとなる文化勲章を受章した画家・小林古径の生誕地であることから、古径を中心とした芸術文化事業を市内外に広く情報発信している。

本市では、これまで小林古径作品の収集や、東京都大田区南馬込にあった「小林古径邸」の移築復元、小林古径記念美術館の整備など本市出身の偉大な日本画家の顕彰事業を行ってきており、小林古径邸は平成17年に建築的な価値が認められ、国の登録有形文化財となっている。

一方、古径作品を展示する小林古径記念美術館は、上越市立総合博物館と施設を共有しており、文化財である小林古径邸とは同一公園内に位置しながら離れた場所に位置しているため、来訪者から美術館の存在が分かりにくいといった声が多く寄せられている。

このため、市では、小林古径邸と同一敷地内に小林古径記念美術館を増改築するとともに、総合博物館を上越市立歴史博物館として大規模改修し、両施設の一体的な利用により施設の魅力を向上させ、集客力及び利便性の向上

を図っていく。

また、本施設の整備後は、これまで古径作品の紹介が中心であった展示において、本市ゆかりの美術作家や優れた国内外の美術作品を幅広く紹介することが可能となり、本市の芸術文化の魅力を発信することで、交流人口の拡大を目指していく。

#### 【数値目標】

事業	国登録有形文化財小林古径邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古径記念美術館増改築事業	年月
KPI	高田公園内施設の利用者数（※）	
申請時	96,000人	H30.3
初年度	103,000人	H31.3
2年目	103,000人	H32.3
3年目 (事業完了翌年度)	120,000人 (10月小林古径記念美術館オープン)	H33.3

※高田公園内施設の利用者数

(上越市立歴史博物館、小林古径記念美術館、高田城三重櫓、小川未明文学館の利用者数の合計)

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府):【A2007】

(1) 事業名: 国登録有形文化財小林古径邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古径記念美術館増改築事業

(2) 事業区分: 観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本市は、近代日本画壇の代表格であり、新潟県人で初めてとなる文化勲章を受章した画家・小林古径の生誕地であることから、古径を中心とした芸術文化事業を市内外に広く情報発信している。

本市では、これまで小林古径作品の収集や、東京都大田区南馬込にあった「小林古径邸」の移築復元、小林古径記念美術館の整備など本市出身の偉大な日本画家の顕彰事業を行ってきており、小林古径邸は平成17年に建築的な価値が認められ、国の登録有形文化財となっている。

一方、古径作品を展示する小林古径記念美術館は、上越市立総合博物館と施設を共有しており、文化財である小林古径邸とは同一公園内に位置しながら離れた場所に位置しているため、来訪者から美術館の存在が分かりにくいといった声が多く寄せられている。

このため、市では、小林古径邸と同一敷地内に小林古径記念美術館を増改築し、両施設の一体的な利用により施設の魅力を向上させ、集客力及び利便性の向上を図っていく。

また、本施設の整備後は、これまで古径作品の紹介が中心であった展示において、本市ゆかりの美術作家や優れた国内外の美術作品を幅広く紹介することが可能となり、本市の芸術文化の魅力を発信することで、交流人口の拡大を目指していく。

#### (事業の内容)

- ・国登録有形文化財小林古径邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古径記念美術館増改築事業

小林古径邸敷地内に小林古径記念美術館を増改築し、国登録有形文化財を活用した美術館を整備する。あわせて、これまで博物館で収蔵してきた上越ゆかりの美術作品も所管替えし、分離されていた美術館機能を一元化することで魅力ある美術館とする。

整備後は、古径作品の紹介にあわせて、本市ゆかりの美術作家や優れた国内外の美術作品を展示し、本市内外から入館者を呼び込む。また、当館入館者を隣接する博物館及び文学館等の文化施設に回遊させることで交流人口の拡大を図る。

#### →各年度の事業の内容

#### 国登録有形文化財小林古径邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古径記念美術館増改築事業

初年度)小林古径記念美術館の増改築事業を行い、躯体の施工を行う。

2年目)小林古径記念美術館の増改築工事を継続して行い、内装工事、空調工事、展示ケースの設置等を行う。工事とあわせてリニューアルオープンに向けてポスター・チラシを作成し、PR活動を展開する。

#### (4) 地方版総合戦略における位置付け

上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、しごとづくり分野の具体的施策「観光コンテンツの充実と観光関連産業の強化」の中で、本市

のまちの魅力を高めるため、歴史・文化的資源の活用を推進し、情報発信を進めることを掲げている。

本事業は、本市出身の著名な日本画家である小林古徑を中心とした美術館を整備することで、これまで情報発信してきた歴史・文化資源を活用した本市の魅力がさらに高まり、総合戦略で掲げる具体的施策のKPI「市内への観光客入込数（現状 5,437,588 人/年 → 平成 31 年 7,600,000 人/年）」の達成に寄与することとなる。また、本施策による観光業の振興を通じて基本目標「安定的で魅力のある雇用を創出する」の達成に貢献することが期待される。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	国登録有形文化財小林古徑邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古徑記念美術館増改築事業	年月
KPI	高田公園内施設の利用者数（※）	
申請時	96,000 人	H30.3
初年度	103,000 人	H31.3
2 年目	103,000 人	H32.3
3 年目 (事業完了翌年度)	120,000 人 (10 月小林古徑記念美術館オープン)	H33.3

※高田公園内施設の利用者数

(上越市立歴史博物館、小林古徑記念美術館、高田城三重櫓、小川未明文学館の利用者数の合計)

(6) 事業費 (単位：千円)

国登録有形文化財小林古徑邸を活かした芸術文化拠点の創生～小林古徑記念美術館増改築事業	年度	H30	H31	計
	事業費計	112,250	357,636	469,886
区分	工事請負費	108,220	346,978	455,198
	委託料	4,030	10,658	14,688

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

	H30	H31	計
セメント製品製造業	20,000	-	20,000
印刷業	100	100	200
計	20,100	100	20,200

## (8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

### (評価の手法)

毎年度、各指標の集計を行い、上越市・上越教育大学・上越商工会議所などで構成し、本市の総合戦略の策定及び推進を担う「上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会」の会議において検証を行い、検証結果を基に、市で事業の見直しを行う。

### (評価の時期・内容)

毎年度、5月に「上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会」の会議において検証を行い、検証結果を基に翌年度以降の事業の見直しを行う。

### (公表の方法)

市が評価・検証後速やかに上越市ホームページにより公表する。

## (9) 事業期間 平成30年4月～平成32年3月

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 小林古径記念美術館周辺整備事業

事業概要：小林古径記念美術館の増改築工事に伴い、建物完成後に外構工事を行い、建物周辺の環境整備を行う。

実施主体：上越市

事業期間：平成32年度

##### (2) 小林古径記念美術館リニューアル記念展開催事業

事業概要：小林古径記念美術館増改築事業のリニューアルオープンを記念し、小林古径を中心として上越ゆかりの作家の作品を一堂に展示し、各地から美術館への来館者を呼び込む。

実施主体：上越市

事業期間：平成32年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

## **7 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

### **7-1 目標の達成状況に係る評価の手法**

毎年度、各指標の集計を行い、当市の総合戦略の策定及び推進を担う「上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会」の会議において検証を行い、顕彰結果を基に、市で事業の見直しを行う。

### **7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容**

毎年度、5月に「上越まち・ひと・しごと創生推進協議会」の会議において検証を行い、検証結果を基に、翌年度以降の事業の見直しを行う。

### **7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法**

市が評価・検証後速やかに上越市ホームページにより公表する。